

中央大学ダイバーシティセンターにおける聴覚障害学生支援

— 学生目線からの実感を交えて —

(中央大学ダイバーシティセンタースチューデント・アシスタント) 渡井心結

1. 背景

中央大学は2017年の「ダイバーシティ宣言」に基づき、ダイバーシティセンターを設立。障害/ジェンダー・セクシュアリティ/グローバルの3領域に専門コーディネーターを配置し、学生・教職員・学外関係者と連携しています。



- (詳細は右上のQRコード「ダイバーシティ宣言」へ)
- ・2017年の中央大学「ダイバーシティ宣言」に基づき活動開始。
 - ・専門コーディネーターが個別相談・合理的配慮を検討。
 - ・聴覚障害支援はコーディネーターを通じ、各部署と連携。

2. 支える人の体制

◎スチューデント・アシスタント (SA) 制度

- ・ダイバーシティセンター管轄
- ・登録学生約200名。アルバイトとして活動。
- ・役割: ノートテイクや文字起こし/移動支援/ダイバーシティセンター主催のイベントスタッフなど
- ・SA専用のメーリングリストにより募集や情報共有。
- ・登録学生のうち、単発を含めても活動への参加学生は少ない。

3. 聴覚障害学生への具体的な支援

詳細は右のQRコードへ。

「障害学生支援のためのハンドブック (学生版)」

◎配慮文書作成:

- ・学期始めに担当教員へ学生の配慮事項を共有。



◎貸出機器:

- ・AmiVoiceマイク: 高性能マイク。最大、学期ごとの貸出。
- ・SA用のパソコン: センター貸出。SA自身の私物使用も可。
- ・その他: 「中央大学「障害学生支援のためのハンドブック (学生版)」 p.15「学内で利用可能な支援機器」

◎情報保障 (聴覚障害のある学生向け):

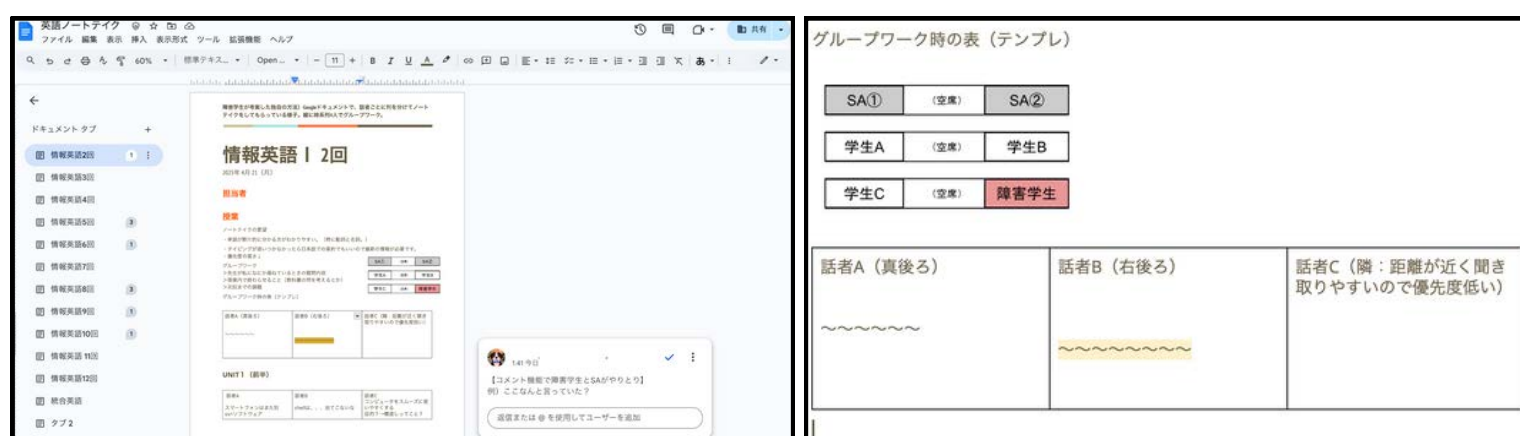
- 授業中の音声をリアルタイムで文字に変換する支援。
- 利用者の希望によりノートテイクは隣席/離席で対応可能。
 - ・手書きノートテイク: 紙に文字化。
 - ・UDトーク: 大学が法人アカウントを契約している音声認識アプリ。リアルタイムで字幕を提供。文字編集が可能で、SAによる修正可。
 - ・CaptiOnline: 複数人で、連係入力しながら手打ちして字幕を提供。
- ・音声教材の文字起こし: 授業で使用する動画などの字幕を事前に作成。

◎Googleスペース:

- ・学生・SA・コーディネーター間の連絡に使用。
- ・欠席連絡などが気軽にできる一方、アカウント名の表示が自由編集できずメールアドレス名が使用されるため、学生が識別しにくい点に課題あり。

◎学生発案の工夫:

- ・Googleドキュメント活用: 3人以上のグループワーク。複数SA同士が同時編集し、グループワークの音声を文字化。

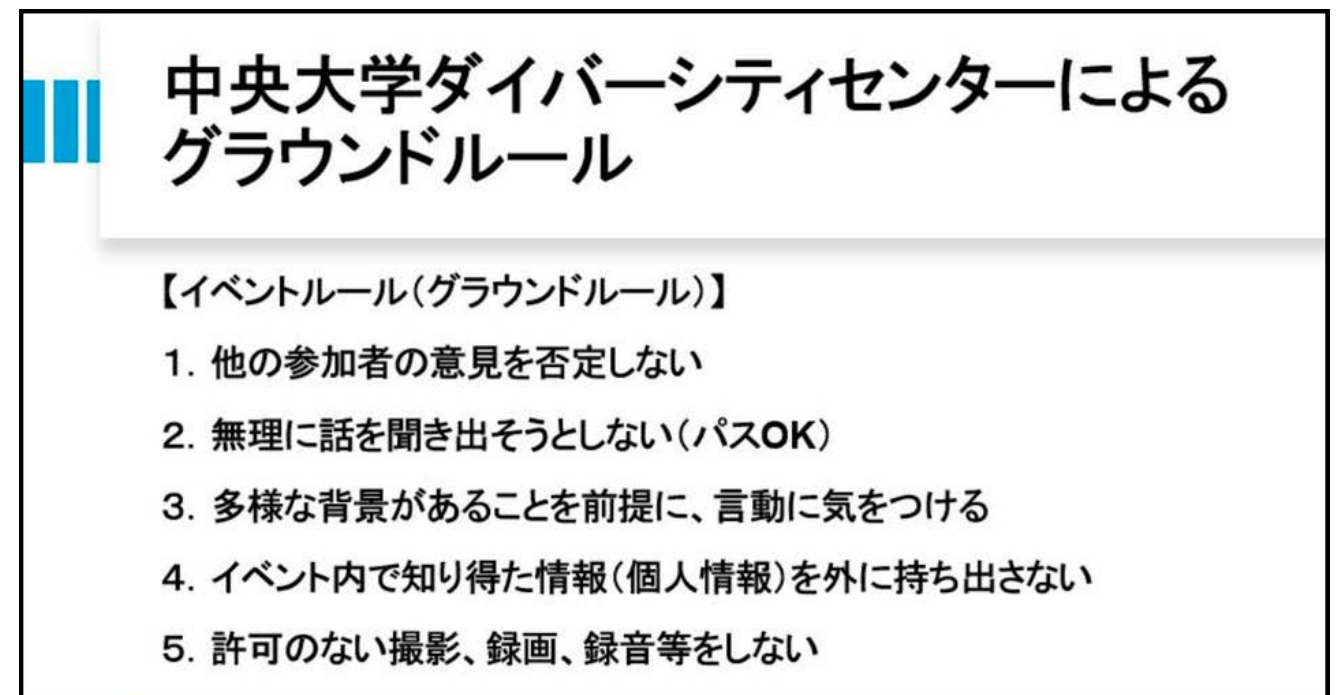


Googleドキュメントの利用

4. 交流の広がり

◎グラウンドルールの共有

- ・ダイバーシティセンター主催のイベントにて冒頭にコーディネーターが説明。
- ・参加者の心理的安全性を保つためのルール設計となっている。



◎手話つと交流会

- ・コーディネーターが手話交流企画として外部のろう講師を招聘し開催。
- ・中大生にとって、学校という身近な場所でリアルな手話に触れる機会になっている。

◎ダイバーシティウィークス

- ・講演会や上映会の開催。
- ・学内外から参加者が多数来訪。
- ・2025年は、デフ陸上の佐藤湊 (さとう そう) 選手が登壇。



ダイバーシティウィークス 手話つと交流会

◎フォローアップミーティング

- ・学期の中間に行うSAと利用学生を交えた交流・振り返りの場。
- ・具体的課題や改善案が出る機会。

◎学生交流会

- ・学期末に行うSAと利用学生を交えた交流・振り返りの場。
- ・これからサポートに携わりたい学生が参加したり、学生が進行してみんなで楽しめるゲームをしたりすることもある。

5. まとめ・今後の課題

- ・中央大学ダイバーシティセンターでは、制度と学生の意見を組み合わせた柔軟な情報保障を実施しており、また、学習修学支援にとどまらず、学生が安心して自己理解を深め、多様な人となつながら場を提供している。

- ・一方で、SAのアクティブ率の低さや、情報保障に関わるスキルや経験の共有方法、モチベーション維持の仕組みづくりは今後の課題である。

- ・また、大学内での取り組みに限らず、他大学の実践や利用者・支援者双方の声を取り入れながら、持続可能で開かれた支援を目指すことが求められる。

問い合わせ先:

中央大学ダイバーシティセンター (右のQRコードより)

